



平多所  
危止至其  
痛死ス  
申候

十六日

心中ノ痛傷ヲ癒セヨ、只加保ヲ  
其功多ク昔ノ如ク多クナリ

上ノ羅

昨者ノ猛風雨ニ一遊収カノ軍勢也  
一降合ニ各隊ノ兵士常ニ努力ニシテ一始ト  
夜苦ナリ

皇軍本部ノ命傳レテ自ラ及者ニツ  
災難ヲ集録ス、身ニ痛ノ響ク  
事ノ多ク、惨境ニ墮スルノ其ニ  
一善光ノ先頭ニ立テテ勇進セシ  
其後、橋下中尉ノ討死後地ニ至ル  
比前線更ニ復壯化ス唯健斗ヲ

十五日

新ルヤ切ナリ

隊長会報主トテ演習成果  
状ナリ

最近ノ雑吟一束

菊一輪 机の上に秋を映く  
際留アヘテ 仰ぐ秋空 天高く  
時雨して 身に沁む 我の息吹哉  
作事ノ今日ニ終リシハヤシシ  
戦友ニ想ひて 吾輩ニ立ツ  
歴史は三年を去リ 臣等皆  
つくまづらめや 吾輩の火はく

神皇正統記

神國の伊勢路に仰ぐ大神幸

鬼神玉に宿かを唯玉の御

故郷に皇の子の星と新りつ

老の身は中を一安御の御

いづらに言ふ又一人御れしと

軍國の並ぶる御年の非心

いづらに言ふれしといへばは

すめらみくはのみちこは

乃とくと驚れし敵友の名を

とよりが影は

すはまに仰ぐ赤空

雲高し

色は極極盛衰事故

陛下の赤子カテ此ノ年チヤ

新りつ思へ、取直 皇の御

眼前に素心、深ク責メ

御心カテ御業の全身御

赤子カテ腹一杯ニ飯ヲ

セテ、皇

現在ニ勝テ、完勝ノ

一ニ現在ニ勝テ此ノ

相争ニ唯勝ツ一途ニ

産土の神の宮庭に朝

新りて我夫 皇神ノ

以テ後子ニ討

十八日 月曜

秋空久方掃りニ晴レタリ  
午前中多隊屋止上等各一告別  
式ニ参到。後予屋初ヲ祈ル。  
也ナク教ヲ見テカクノ念切ナリ也  
唯老久ノ心カハ。  
質博士 神宮ウチ道ヲ讀ム。  
又 修シ其他ニニニ修リ安忍ム。

十九日 火曜

午前中吉田地区ニ至リテ紅葉隊ノ  
秋風觀察。吉田ウチノ家ニテ習儀。  
午後十葉隊ニ查圖見テ。是方  
トニニ偵察ニ付ク。  
泉津尉並ニニ来ル。誠心カク人ニ接ス  
急ニ宿舎未ダ至ラス。戒心ニ付。  
又候再ニ惡化レ雨降ルナリ

二十日 水曜

午後十葉隊演習。研究。種々教へ  
ル。所多ク。又宿舎ニ入ルカクナリ  
午前中三思ニ教シテヲ修ス。

二十一日 木曜

幹部教育第三班 午前中ニテ中止。  
留所宅渡整理。人筆等ニ就テ  
若干勤ク。

神司隊大久保一尋七死七又。  
蓮下寫福才新也。

厨子少尉来り權々ト雜談ス  
將校固、固結ニ就テ。地任ニ就テ  
初將ニ就テ。光復来テ予ノ最モ痛  
ク必要ヲ感じ又反者レバ其ノ命  
計ハ六六中秋ナリ。  
夕ニ来リ連日ノ曇天暗レ月光在リ  
所ニ及ビ心中斯ノ如クノ荒地ニ至ラ  
カ又向顯ノ起ルベオ余地ヲカルベシ

辛酉の金曜

並前中垣架文教育査見キ在野一  
並野教育

應聖家其他諸種ニ向顯入り見モ

五月地ノ後也

三善土曜

教育教育。短期向ニテヒトナリ  
若ハタルノミナリシモ。或果シテリタモ  
ト觀也。

相愛多クモ多クニタ宮氣ノ中ニ信也  
最速ノ天候ノ如ク...

新況極治洗化ス、連斗ノ新也ナリ

詩

軍村未だ遠也スハ將弱ク言ハズ  
軍軍未だ解也スハ將倦ク言ハズ  
軍軍未だ快也スハ將威ク言ハズ  
誠也人の勳也スレテ中リ思ハレテ得  
從者シテ道ニ中レ聖人ナリ  
士未だ坐也セバ坐スル事勿シ  
士未ダ食也セバ食スル事勿シ  
養身也必ズ同イラセヨ  
下侯教有リ見ル  
平原吉村陸軍司庫一書武考の

三書  
日曜

(大韜)

吉田少死来リ能ス。将校田ノ國境  
際ノ敵化等ノ衆ヲ。賄賂ヲ用テ  
南ノ敵軍ノ國境等ノ衆ヲ。賄賂ヲ用テ  
日指カレガ如キ事ヲ先知セシメ  
軍機ニ對シテ中實ナク其等ノ事ヲ  
者五者ヲ其ニテ防者ニシテ其等ノ事ヲ  
予等自ラテ及者レテ其等ノ事ヲ  
日多カレトシテ其等ノ事ヲ  
トスル事ヲ先カ予自身ニ加テ其等  
也亦ハカラス

三書  
日曜

大正天皇御紀

御製

夜半の機織道遠州 満天明月思終  
何時能遂平生志 一器雖平玉大  
大白天皇、御治志ヲ思  
御製ニ拜ル 大御心ヲ想ハ奉ルニ  
愛ハ胸ヲ衝クモノ痛切ナリ  
平生ノ御志ヲ遂ルル事奉リ得ナリ  
下也ハ六のゾニ玉民ノ奉ルニ  
ナリシテ、御實文化、治々思流ニ  
御心國思ノ道ニ 莫ク是實ノ林  
御心奉リシニ思フニ玉民ニ御心  
善願ニ御心奉ル 今時愈々  
又奉ル

ナル下及老老ナリ

吾々 皇天ノ如ク 皇天志ヲ再ハスルカ  
如クマカカカ 皇天志ニ御心奉ルニ  
皇天ノ如ク、御心奉ルニ

大志ニナレ

御心奉ル

御心奉ルニ 御心奉ルニ

御心奉ル

御心奉ルニ 御心奉ルニ

御心奉ルニ 御心奉ルニ

御心奉ルニ 御心奉ルニ

御心奉ルニ 御心奉ルニ





陛下並願上光啓、名言、不  
缺別、本日心三痛棒、  
大所統率、任三九等、  
道徳以テ操回ヒシ。

此後也生曰、  
斯レ足矣、  
國ヲ守ルニ

清明人義正人心、  
斯レ大矣、  
古人有言、  
皇道矣、患不興起、

天皇本紀

軍勢盛ん、  
一切ノ整理ヲ  
若シ望ミ、  
相違交不、  
系カ半歳、  
ヒヒテ、  
陛下、  
臣下、  
奉先、



辛酉日曜

珍らしき使節・好天ニ昭和ニ十年ハノ  
後望前途明胡ナリ  
北時精前ハ疾毛呂ノ型一機  
本島上空ヲ旋回シテ去ル  
沖能方面ヘモミミテテ来襲セリト  
夜在教諸官伊集子・在島隊諸  
官等ノ一隊ヲ送別ヤカニ年送リ  
ニ又  
系カ一連テ通ジテ最モ肝銘深カキ好和  
十九年モ送リ送リセリ  
軍艦下ノ帰ルニ感極ニ世ニテテ只管

精勵セル前半ニ此ノ時多ク態度ヲ願フ  
新地叩頭スベキ余リノ多キ驚ク  
心腹一紙唯胸官ノ人義目指シテ心身  
共ニ明カ洋中道中ノ心算ヲ奪取セシ  
次戦年ニ度シテ

一斗は昔多しと云はけり  
梅はつたての菊如き松飾り  
沖波成長ノ又一年ニ如ク